



来た道行く道

「子供を叱るな来た道だから、老人を笑うな行く道だから。」私の好きな言葉の一つである。どこの誰が言ったか知らないが、子供のときに聞いた言葉なのに今もお私の心に残っている。そしてこの言葉は自分の行動の指針の一つとなっている。

子供の頃、私はひょうきんで人を笑わせるのが好きだった。勉強・運動では一番になれなくても(笑)、そこでは周囲の注目を集めることができた。そもそも私の父もひょうきんなところがあり、町内のお祭りではひょっとこのお面をかぶって通りを歩き、お祭りを見に来ている子供たちの笑いをとっていた。そう考えると血筋なのかもしれないが、その血筋は私だけに終わり、兄と妹には受け継がれなかった。だから目の前の生徒が、そのときの自分のように、周囲の注意を引くためにひょうきんな行動をする気持ちにはわかる。この言葉を思い出し、「自分もこんなことしたな、いまはまだそういう年頃なんだな」と思っ目くじらを立てないようにしている。自分も通って「来た道」だと。ぐずって泣く赤ん坊然りである。スーパード駄々をこねる子供然り。

年齢によってその言葉のどこに心動かされるかは変わるようで、このようにこれまでは、「来た道」を特に意識していたが、最近はこちらかという「行く道」を意識するようになってきた。いい年になり、子供よりもお年寄りに近づいたせいもある。世の中便利になり、いろいろなることが速くできるようになっても足腰が弱り行動が緩

慢になってきたお年寄りには不便なことが多い。次々と流れるレジで計算にまごつくお年寄り。自動という名の慣れない機械の操作に戸惑うお年寄り。そんなお年寄りについてい腹を立てそうになつてしまいが、この言葉を思い出し、その気持ちを抑えることにしている。これから長生きすれば自分も間違いなく「行く道」だ。そのとき自分は若い人にどうされたいかと考えると、目の前のお年寄りを粗末には扱えない。お年寄りの姿に田舎の両親の姿を重ねてもしまう。これから私たちが歩む道を次の若い世代が通っていく。年老いた自分の未来のためにもきちんとした道を残していきたい。

後日わかったことだがこの言葉には続きがあり次のように続く。「来た道行く道二人旅 これから通る今日の道 取り直しのできぬ道」と。確かに今日という日は二度と来ないかけがえのないものだ。しかし私は一生懸命生きていけるだろうか。今日が最後の日となつても後悔しないような生き方をしたい。

(小池)



私の受験体験記

新しい年を迎え、受験生は合格目指して猛勉強していることだろう。そんな必死になっている受験生を見ると、自分が受験生だった頃を思い出す。そこで、今回は私が受験生だった頃の話を書きたい。

私は、今までに中学・高校・大学の三回受験を経験している。そして、その中でも最も過酷だったのは、中学受験だった。よく、高校受験のときが一番勉強したということをする。私も高校

受験では、確かに必死になって勉強したが、中学受験のときほどではなかった。

では、中学受験で何が過酷だったかというとなんといつても勉強時間だ。どのくらい勉強したかという、学校から帰ってきたあと、すぐ塾へ向かい、夜の十時まで授業があった。これだけでも充分すぎる時間を勉強しているのだが、そこがが地獄だった。塾でやった内容の解き直しや復習が終わらないと寝ることができなかった。だから、だいたいの布団に入るのが十二時を回っていた。そして、この生活は受験が終わるまで、ほぼ毎日続いた。



このような生活が毎日続くわけだから、受験間近になると精神的にも病んでくる。特に成績が返ってくるときは酷かった。あれだけ勉強しているのに結果が出ず、毎回志望校の変更を迫られた。はつきり言って、やめたかった。全てを投げ打つてもやめたかった。しかし、ここでやめてしまったら、今までのいんなことを我慢して勉強してきたことがすべて水の泡になると思ひ、ギリギリのところまで踏みとどまった。

しかし、精神的に病んでいるのは変わらない。そこで、考え方を少し変える努力をした。それは、「自分も必死になって勉強しているが、周りの受験生は自分よりもさらに勉強している」と思うようにしたことだ。そう思うようになってから、だいぶ精神的に楽になり、その結果、少しずつだったが成績も上がるようになった。

そして、試験当日。試験中は、見たことのない問題がたくさん出題されていて、始めは少しパニックになっていた。しかし、今までの生活を振り返り、自分は死に物狂いで勉強した、もし合格できなくても後悔はないと自分に言い聞かせていたら、落ち着きを取り戻していった。

人間万事塞翁が馬

結果は……第一志望には届かず不合格だった。不合格を知ったとき、普通なら悲しさや悔しさから泣き崩れる受験生が多いが、私は不思議と悲しさや悔しさはなかった。全くないと言ったらそうなるが、それよりも達成感の方が大きかった。こうして私の中学受験は終わったが、みんなはこれから本番が始まる。そして、本番を迎えれば、必ず結果が返ってくる。そのときに後悔しないためにも、必死になって勉強してほしい。そして、結果はどうあれ、笑顔で受験を終えてもらいたい。(矢上)

新年が幕を開けて早くも数週間が経とうとしています。一月の行事といえばお正月。お正月というワードを耳にしてどんなことが連想されるでしょうか。初詣にお年玉、鏡餅に初日の出等々、思いのほか結構たくさん出てくるかと思ひます。中でもお節料理やお雑煮を食べるとお正月を感じる方もいるのではないのでしょうか。また、地域によってはお正月に食べるものが他の地域と異なることもあるでしょう。

私の地元である沖縄県では、お正月にはお節料理を食べる機会はありません。もちろんお雑煮もありません。

では、一体何を食べるのかというとお節料理ではなく、大抵オードブルや郷土料理を、お雑煮ではなく、中身汁と呼ばれるモツのお吸い物のようなものを食べていました。お正月には新年の挨拶も込めて島中の親戚の家を訪問しますが、どこか家庭でも大体そのようなものを食べていました。そのため、初めてお雑煮を食べたのは大



